

株式会社 たねや

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書



発行日：2022年3月18日

発行者：株式会社滋賀銀行 営業統轄部

ESG ファイナンス戦略チーム

滋賀銀行は、株式会社たねや(以下、「たねや」)に対してポジティブ・インパクト・ファイナンス(以下、「PIF」)を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト(ポジティブな影響およびネガティブな影響)を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ(UNEP FI)が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド(モデル・フレームワーク)、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、滋賀銀行が独自に開発した評価体系に基づいている。

目 次

1.企業概要と経営理念、サステナビリティについて	3
(1) たねやグループの概要ならびに経営理念	3
(2) サステナビリティ	3
(3) 重要課題	4
2.インパクトの特定	6
(1) 包括的分析によるインパクトの特定プロセス	6
(2) たねやにおける分析	6
(3) 特定したインパクト領域	11
(4) インパクトニーズとの関係性	15
(5) 本 PIF に対する当行の意図	16
3.インパクトの評価	18
4.モニタリング	21
(1) たねやにおけるインパクトの管理体制と開示方針	21
(2) 当行によるモニタリング	21

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティについて

(1) たねやグループの概要ならびに経営理念

たねやグループは和菓子の製造・販売を手掛ける株式会社たねや、洋菓子を手掛ける株式会社クラブハリエの2社を主たる事業会社とし、ほかにも自社で使用する農産物の栽培を行う株式会社たねや農藝を運営するなど滋賀県を中心に全国48拠点を展開し事業を行っている。主力商品としては、皮種と餡が別々に包装され出来立ての風味が味わえる最中「ふくみ天平」や日本人の嗜好に合わせた仕上がりにした「バームクーヘン」などが挙げられる。2015年には「自然に学ぶ」をテーマにフラッグシップ店となる「ラ コリーナ近江八幡(以下、『ラ コリーナ』)」をオープン、年間300万人を超える観光客が訪れる滋賀県の一大観光地となっている。

たねやは、江戸時代の材木商、後の種苗商を前身として、1872(明治5)年に現在の滋賀県近江八幡市にて菓子舗として「種屋末廣」の屋号で創業した。経営理念として、「天平道(てんびんどう)」「黄熟行(あきない)」「商魂(しょうこん)」の三つを掲げている。「天平道」は「商いの道は人の道である」とし、感謝の気持ちがまず大事であるということ、「黄熟行」は「手塩にかけること」であり、真心、思いやりを大切にするということ、「商魂」は「いかにお客様に喜んでいただけるか」ということであり、近江商人の「三方よし(売り手よし 買い手よし 世間よし)」の精神を受け継ぎながら、常に社会から必要とされる会社を目指している。



ふくみ天平



バームクーヘン



ラ コリーナ近江八幡

[出所：たねやグループのウェブサイト]

(2) サステナビリティ

たねやは「自然に学び、自然に訊く」「会社があるのは地域のおかげ」という考えのもと、自然と共生しながら、地域に必要とされ、その地の自然や風土、歴史を未来につないでいくことを企業の役割と見据え、早くから環境保全活動や文化活動にも取り組んできた。

2017年には、国連が掲げるSDGsの普遍的な理念に共感し、サステナビリティへの考え方を示したものとして「たねやグループ”SDGs”宣言」を公表している。また、サステナビリティを考慮して事業活動を行うべく、「社会部」という専門部署を設けサステナビリティへの取組みを社内外に発信する役割を担ってきた。21年9月には社会部を取締役会直轄の「経営本部」に改組し、その取組みを一層強化している。他にも、たねやの教えをまとめた冊子「末廣正統苑」を入社時に全従業員に配布し、毎朝夕唱和するなど、経営陣から従業員に至るまでサステナビリティに関する情報や価値観を共有する体制が構築されている。

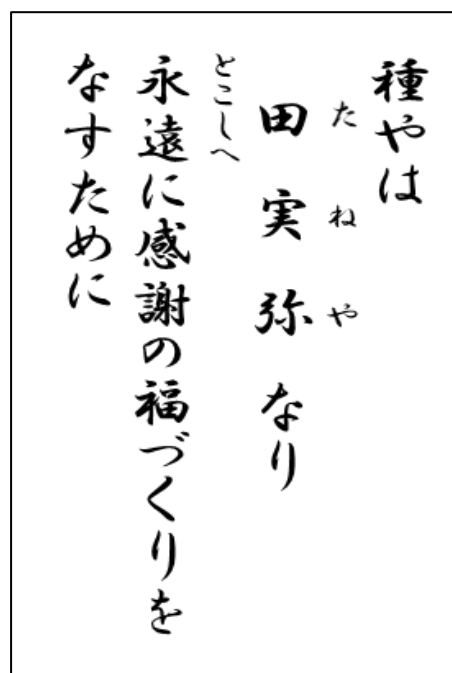
こうしたサステナビリティへの考えや思いを具現化したものの一つが「ラ コリーナ」であり、地域住民や訪れた観光客に対して「たねやグループの生き方(想い)」や「人と自然の理想的な共生の形」を表現する場としての役割を果たしている。

■たねやグループ“SDGs”宣言



[出所：たねやのウェブサイト]

■『末廣正統苑』（一部抜粋）



[出所：書籍『たねやの心』]

(3) 重要課題

たねやのサステナビリティを実現していくために、下記の5項目を重要課題として掲げている。この重要課題の特定にあたっては、まず同社のサプライチェーン全体を俯瞰し、ISO26000などの企業評価項目や ESG 課題をもとに事業活動が環境・社会・経済にどういった影響を与えているかを検討。その上で従業員や地域社会、お客様といったステークホルダーの声をもとに、自社にとっての重要性とステークホルダーにとっての重要性という観点から、特に重要性の高い項目を整理し、取締役会と経営本部での議論を経て、特定したものである。

- | | |
|------------|-------------------------|
| ● お菓子の素材 | ～豊かな自然の恵みを活かす～ |
| ● 自然と楽しく | ～ともに生き、“農”を考える～ |
| ● 女性活躍と働き方 | ～一人ひとり健やかな働き方のために～ |
| ● 地域のつながり | ～伝統と暮らしの技を次世代へ～ |
| ● 環境への取り組み | ～捨てられてしまう物を1gでも減らせるように～ |

●お菓子の素材 ～豊かな自然の恵みを活かす～

滋賀をはじめ世界の生産者とのつながりを大切にし、厳選した素材を使用すること。その調達を持続可能なものにするために、農業が持続的に発展する取組みを行なう。豊かな自然の恵みを活かしたお菓子を提供することで、食べる人にこころと身体 の健康や幸せを届けることに取り組む。

●自然と楽しく ～ともに生き、“農”を考える～

「ラ コリーナ」を自然や伝統をつなぐ場所とし、地域の人々と無農薬での米作りや植樹を行うなど、社内外の人々とともに自然や農業を学び、経験を重ねていく。

●女性活躍と働き方 ～一人ひとり健やかな働き方のために～

従業員の 7 割、管理職の 4 割以上を女性が担っていることから、子育て支援や介護に関する支援制度を整えるとともに、気軽に相談できる窓口を社内に設置することで、女性が長く働くことができる会社作りを進めている。また、労働安全の徹底や健康経営の推進を図ることで、女性に限らず、全従業員が活躍できる組織を目指す。

●地域のつながり ～伝統と暮らしの技を次世代へ～

地元の伝統を継承するイベントを企画運営、参加するほか、小学生の課外授業や大学との共同研究なども実施。地域の人々と関わりながら伝統や文化について深く知り、次世代につないでいくこと自らの役割としている。

●環境への取組み ～捨てられてしまう物を 1gでも減らせるように～

他社とも協力しながら、地域の中で様々な資源が循環・再活用できる仕組みを作っていくほか、包装資材などにおいて石油由来のプラスチックの利用を減らす取組みを行うことで、循環型社会の形成を行なう。また、自社の事業活動における温室効果ガスの排出量を減らすとともに、地域を巻き込んで脱炭素社会の実現を目指す。



[出所：たねやウェブサイト]

2.インパクトの特定

(1) 包括的分析によるインパクトの特定プロセス

当行の「インパクトファイナンス実施体系」に定める包括的分析により、インパクトの特定手続きを実施した。なお、特定にあたっての重要な項目に関しては、その裏付けとなる内部資料等の確認および企業との対話の実施により手続きを補完することとしている。

(2) たねやにおける分析

前述したインパクトの特定プロセスをたねやに適用し分析を実施した。なお、当行はたねやが十分な議論を経て特定した重要課題を、インパクトを持続的に発現させるためのキーファクターと考えていることから、インパクトの特定プロセスにおいてもこれを尊重して分析を行っている。

①事業性評価

たねやの特徴は、「自然に学ぶ」をコンセプトにしたお菓子である。原材料の調達、製造、流通販売の各工程においてその特徴を見ていく。

お菓子の原材料は厳選したものを使用する。和菓子に使うヨモギが中国で大量の農薬を使用し栽培されていたことをきっかけとして農業関連子会社を設置した。原材料となる農作物を自社で無農薬・有機栽培するほか、菓子だけでなく店舗からも四季を感じられるように、全国の店舗に飾る500種類以上の山野草も育てている。また、原材料の調達を担当する「仕入部」は、価格や品質だけで判断せず、自ら生産現場を見て、作り手の気持ちや苦勞を知ったうえで、よりよい原材料を適正な価格で買うことを信条とする。時に市場価格よりも高くなることもあるが、生産者の持続可能性や信頼関係を重視し、中長期的な視点をもった調達を心掛けている。

製造工程においては、早くから機械化の可能性に着目。2004年に愛知川工場に7億円を投じクリーンルームを設け、完全無菌状態で水羊羹を製造できるようにした。殺菌のために熱を加える必要がないことから、きれいな紫色に仕上がりに、小豆が持つ本来の風味が味わえるとともに、手作業で製造するよりも日保ちするようになっている。一方で手作業でしかできない繊細な作業も多く存在し、熟練の技術と機械化を融合させながら安全と美味しさを追求している。

流通販売においては、地盤を滋賀に置きながらも首都圏、京阪神の百貨店に店舗を展開。過去2度の大きな震災の経験から、売上一極に集中しないよう、売上構成比を滋賀県、関西、関東で三分の一ずつとなるようにバランスを保っている。そのほかにも、「たねやというブランドを売る」という考えのもと、市松模様に統一したパッケージデザインや、「たねや」の名を冠したシンプルな商品ネーミングなど、ブランド戦略にも注力している。ラ コリーナは農園や店舗、工場が一体化した複合施設であるが、その敷地の中央には通常なら販売店を置くところ、田んぼを配置し、近江八幡の原風景を感じられるような施設にしている。敷地内の自然を活用し、教育プログラムやワークショップ

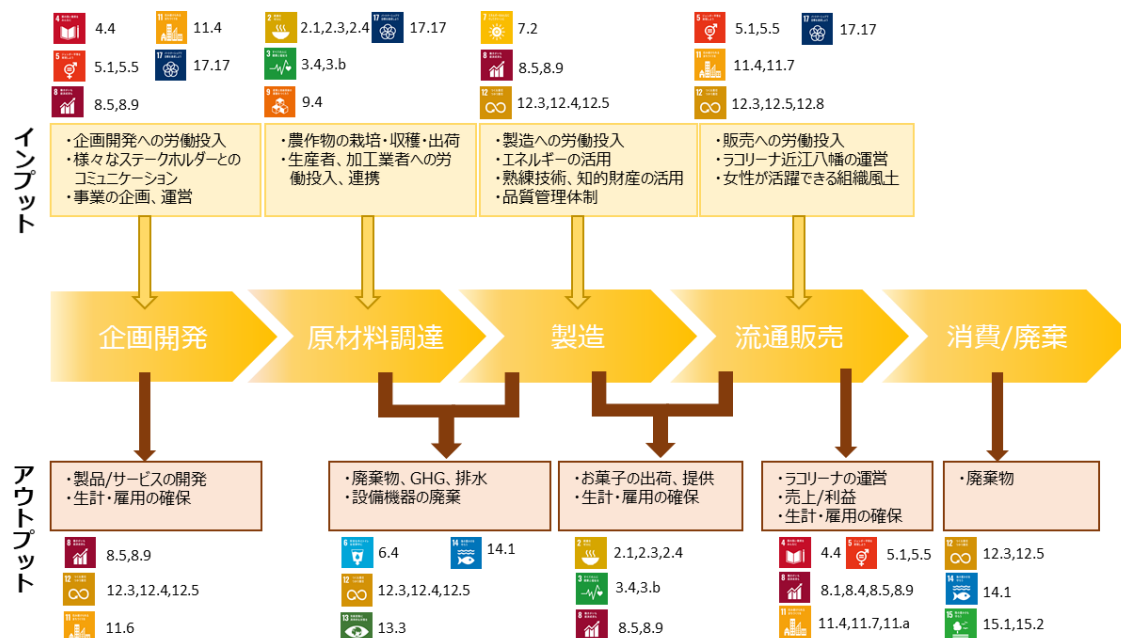
プを開催するなど、学びの場を提供するほか、伝統行事を開催するなど地域の人々がつながる場としても活用されている。

このように、一貫した「自然に学ぶ」というコンセプトに基づくお菓子は、ブランドイメージの定着とともに消費者からの支持を得ており、国内を代表する菓子メーカーとして事業基盤を確立している。

②ロジックモデルによる分析

先述の事業性評価をもとに同社のバリューチェーンを分析することで、事業活動におけるインプット(投入物)とアウトプット(成果物)を以下の通り可視化し、各活動が貢献するSDGsのゴールとターゲットの関連付けを行った。

■バリューチェーンによるインプットとアウトプットの可視化



③ロジックモデルの作成

これまでの分析をもとに、アウトカム(インパクト)の整理をロジックモデルにて説明する。ロジックモデルとは、事業活動(アクティビティ)を通じて、投入(インプット)した資本から製品、サービス、副産物、廃棄物を産出(アウトプット)したり、利益の蓄積、労働意欲の減少、地域の活性化などの影響(アウトカム)を与えたりするシステム(ビジネスモデル)の中で、資本がどのように変化(増減・変換)するのかについて因果関係を明らかにして図表として可視化したものである。

このモデルの中で資本の変化によって生み出される効果がアウトカムであり、当行はこれをインパクトと位置付け、正の変化をポジティブインパクト、負の変化をネガティブインパクトとして特定する。同社のロジックモデルによる分析結果は次頁の通りである。

■ ロジックモデルによる分析結果

バリューチェーン	行動・現象など (インプット/アクティビティ/アウトプット)	着目する資本の変化 (アウトカム)	インパクトカテゴリ
企画開発	<ul style="list-style-type: none"> 企画開発への労働投入と生計確保 様々な関係者とのコミュニケーション 事業の企画・運営 製品・サービスの開発 	<ul style="list-style-type: none"> <財務資本> (正)付加価値の増大(成功) (負)経済的損失(失敗) <製造資本> (正)設備の新設・更新 <知的資本> (正)製品・アイデア・ノウハウなどの具現化・共有化 <人的資本> (正)生計、働きがい、関係者の満足度の向上 (負)心身への負荷 <社会・関係資本> (正)地域の伝統・文化の継承ネットワークの深耕・拡大 <自然資本> (正)地域の自然環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> <社会> 雇用(正・負) 文化・伝統(正) <環境> 水質(正) 土壌(正) 生物多様性(正) 気候(正) <経済> 包括的で健全な経済(正)
調達	<ul style="list-style-type: none"> 生産者、加工業者による農作物の栽培・収穫・出荷 生産者、加工業者の労働投入と生計確保 調達物流における疲労、交通事故の危険、有害ガス排出、GHG排出 設備機器の廃棄 	<ul style="list-style-type: none"> <製造資本> (負)設備の摩耗・破損 <人的資本> (正)取引先の生計、働きがい、栄養素の生成 (負)取引先の心身への負荷、有害微生物・残留農薬等による衛生上の危害 <自然資本> (正)有機農法などによる水質・土壌・生態系などの維持・改善 (負)農業一般に想定される環境負荷・輸送による大気汚染、GHG濃度増加 	<ul style="list-style-type: none"> <社会> 水量(負) 健康・衛生(正・負) 雇用(正・負) <環境> 水質(正・負) 大気(負) 土壌(正・負) 生物多様性(正・負) 資源効率・安全性(負) 気候(負) 廃棄物(負) <経済> 包括的で健全な経済(正)
製造	<ul style="list-style-type: none"> 製造への労働投入と生計確保 製造工程における資源の採取、土地の改変、有害物質の廃棄、GHGの排出 お菓子の出荷 設備機器の廃棄 	<ul style="list-style-type: none"> <製造資本> (負)設備の摩耗・破損 <人的資本> (正)生計、働きがい (負)心身への負荷、有害物による衛生上の危害、フードロス <自然資本> (負)製菓一般に想定される環境負荷 	<ul style="list-style-type: none"> <社会> 健康・衛生(負) 雇用(正・負) <環境> 水質(負) 資源効率・安全性(負) 気候(負) 廃棄物(負) <経済> 包括的で健全な経済(正)
流通販売	<ul style="list-style-type: none"> 販売への労働投入と生計確保 販売物流における疲労、交通事故の危険、有害ガス排出、GHG排出 顧客へのお菓子の提供 設備機器の廃棄 	<ul style="list-style-type: none"> <製造資本> (負)設備の摩耗・破損 <人的資本> (正)生計、働きがい (負)心身への負荷 <自然資本> (負)店舗運営一般に想定される環境負荷、輸送による大気汚染、GHG濃度増加 	<ul style="list-style-type: none"> <社会> 雇用(正・負) <環境> 大気(負) 気候(負) 廃棄物(負) <経済> 包括的で健全な経済(正)
消費/廃棄	<ul style="list-style-type: none"> 顧客がお菓子を食べる 顧客による包材の廃棄・焼却 	<ul style="list-style-type: none"> <人的資本> (正)お菓子を食べる喜び、栄養素の吸収 (負)衛生上の危害の可能性 <社会・関係資本> (正)人と人とのつながり <自然資本> (負)廃棄物の拡散、GHG濃度増加 	<ul style="list-style-type: none"> <社会> 食糧(正) 健康・衛生(正・負) 雇用(正・負) 文化・伝統(正) <環境> 気候(負) 廃棄物(負)

このロジックモデルから導き出した同社のインパクトは次の通りである。

生産者等との対話を通じて自然資本に影響を与え、持続可能な農業を実現する「**自然と共生するお菓子づくり**」。ラ コリーナや行事の企画運営など「**地域とつながる商い**」を行うことで、地域活性化や文化の継承、地域の環境保全など社会・関係資本や自然資本に好影響を与えている。また、女性が活躍できる職場環境の醸成を行うなどの「**多様な人材の活躍**」により、地域の雇用の創出や新商品の開発など人的資本・知的資本を高めている。加えて、事業活動における GHG 排出量や廃棄物の削減など「**環境への配慮**」により、自然資本への悪影響を抑制している。

以下はそれぞれのインパクトにおけるポジティブインパクト(PI)とネガティブインパクト(NI)の区分のほか、UNEP FI のインパクトレーダーにて該当するインパクト・カテゴリを示したものである。

■ 特定したインパクトの整理

PI・NI 区分	インパクト	UNEP FI のインパクト・カテゴリ
PI の増大 NI の管理・抑制	自然と共生するお菓子づくり	<環境> 水質、土壌、生物多様性、資源効率・安全性、 気候、廃棄物 <社会> 水量、食糧、健康・衛生、雇用
PI の増大	地域とつながる商い	<経済> 包括的で健全な経済 <社会> 雇用、文化・伝統、 <環境> 水質、土壌、生物多様性、気候
PI の増大	多様な人材の活躍	<社会> 雇用
NI の管理・抑制	バリューチェーンにおける 環境への配慮	<環境> 資源効率・安全性、気候、廃棄物

④インパクトレーダー等の活用

ロジックモデルにより特定したインパクトに関し、国際目線によるツールとの整合性を確認する。同社の事業活動に該当している5つの業種を特定してインパクトマッピングを使用した。

下図は、5つの業種のポジティブインパクト(PI)とネガティブインパクト(NI)が、どのインパクト・カテゴリにおいて発現すると考えられるかを示したものである。一方で、22のインパクト・カテゴリのうち黄色で抽出しているカテゴリが、ロジックモデルにて特定したものである。

ロジックモデルにより特定したインパクト・カテゴリにはほぼ一致していることから、客観的にも妥当性を有していると判断できる。

■インパクトマッピングによる特定

インパクト・カテゴリ	【1071】 菓子製造		【0119】 非多年生作物 の栽培		【0129】 多年生作物 の栽培		【0411】 非多年生作物 の有機栽培		【0412】 多年生作物 の有機栽培	
	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
水				2		1		1		1
食糧	1		2		2		1		1	
住居										
健康・衛生	1	2	2	1	2	1	1		1	
教育										
雇用	1	1	2	1	1	1				
エネルギー										
移動手段										
情報										
文化・伝統	1									
人格と人の安全保障				2		2				
正義										
強固な制度・平和・安定										
水		1		2		2	2		2	
大気										
土壌				2		2	2		2	
生物多様性と生態系サービス				2		2	1	1	1	1
資源効率・安全性		1		2		2		1		1
気候		1		2		2		1		1
廃棄物		2		2		2				
包括的で健全な経済	1									
経済収束			1		1					

1：関連セクター、2：主要セクター PI：ポジティブ・インパクト、NI：ネガティブ・インパクト

(3) 特定したインパクト領域

特定したインパクトの内容について記載する。

● 自然と共生するお菓子づくり

このインパクトは、環境的側面において農業生産によるネガティブインパクトの緩和だけでなく、農法の改良によるポジティブインパクトの増大を企図する。同時に社会的側面においては生産者や製造工場の労働環境などに関するネガティブインパクトを抑制する。また、自然との共生を深めたお菓子の提供により社会的側面のポジティブインパクトを生み出すと考えられる。

原材料の栽培においては一般的に農薬や肥料を使用するが、土壌の持つ養分が失われたり、水質が悪化するなど自然資本の劣化を招く可能性もある。たねやは厳選した健全な原材料から生まれるおいしさと安心・安全を届けることに加え、自然の豊かさを守り持続可能な農業を実現することも大切なつとめとしている。そのためには、地域や調達に関わるすべての人とのつながりを深め、対話を行うことが必要であると考えている。全国の生産農家のもとを訪ね、考え方や栽培方法などを確認することを通じて、環境負荷の少ない農法の推奨や適正価格による仕入れなど生産者の持続可能性にも配慮してきた。この取り組みをより一層進めるため、2021年8月に「原材料調達に関する方針」と「サプライヤー取引に関する方針」を新たに策定。法令遵守や品質管理に関する項目に加えて、従業員の健康管理など人権や労働環境、環境対策や地域貢献に関する項目を設けた調査票を用いて取引先と対話を実施し、評価・管理を行なうこととしている。

また、和菓子は生活文化である年中行事と密接に関わりがあり、季節感や風物詩、文化や伝統を伝える役目を担っている。日本には豊かな四季を味わうという価値観があるが、四季折々の素材を使ったお菓子は消費者の嗜好を満たすとともに心の栄養という幸福（健康）価値の提供にもつながると考えられ、社会的側面におけるポジティブインパクトを創出すると考えられる。

このインパクトは、UNEP FIのインパクトリーダーでは、「水質」「土壌」「生物多様性」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」「水量」「食糧」「健康・衛生」「雇用」に該当する。SDGsでは、「2.1,2.3,2.4」「3.4, 3.b」「6.4」「8.1, 8.4, 8.5, 8.9」「12.4, 12.5」「15.1, 15.2」に貢献すると考えられる。

■ 自然と共生するお菓子づくりへの取り組み



各地の生産農家とつながる



安全安心。お菓子の素材を自分たちで育てる



折々の季節や歳時を伝え、ともに歩むお菓子を

[出所：すべてたねやウェブサイト]

●地域とつながる商い

たねやは“地域と共生することは事業の一環である”との価値観に基づいて、地域や人がつながる事業活動を展開している。地域のあらゆるステークホルダーを巻きこみながら実施している活動は地域経済の活性化のほか、地域の自然や伝統文化、人々の関係性を次世代へつなぐ役割を果たしており、経済・社会・環境的側面においてポジティブインパクトをもたらすと考えられる。

2015年に開業した「ラ コリーナ」は滋賀県を代表する観光地となっており、年間約300万人が訪れている。その観光客は周辺の八幡堀や安土城などの観光名所にも立ち寄ることがあり、地域の活性化や経済効果にも一定つながっていると考えられる。また、観光客以外に人々のつながる機会創出や生涯学習の場にもしたいとの考えから、たいまつイベントの開催など地域の伝統文化を伝える活動や小学生の課外実習、大学との共同研究の場としても活用している。今後も、生産者が直接野菜などを販売する「マルシェ」などの企画や、幅広い世代を対象とした食や自然に関するセミナーを開催することを新たに検討している。

加えて、近江八幡の街全体を魅力的なものにするために、自治体や地域住民と連携して町並み保存や古民家の再生、歴史ある左義長まつりへの参加など、地域社会に貢献する活動を行っている。そのほかにも自社だけでなく他社とも連携しながら、八幡山の竹林の整備や植樹、西の湖(琵琶湖の内湖)のヨシ刈りなど自然の再生にも力を入れている。

こうした取組みは、地域経済を牽引するとともに地域へ貢献していると評価され、2017年に経済産業省から「地域未来牽引企業」に選定されている。

このインパクトはUNEP FIのインパクトレーダーでは、「包括的で健全な経済」「雇用」「文化・伝」「水質」「土壌」「生物多様性」「気候」に該当すると考えられる。またSDGsでは、「6.4」「8.1, 8.4, 8.5, 8.9」「11.4, 11.7, 11.a」「13.3」に貢献すると考えられる。

■地域とつながる商いへの取組み



小学生の学びの場に



近江八幡の伝統継承、たいまつイベントを開催



豊かなヨシの芽吹きのために

[出所：すべてたねやウェブサイト]

●多様な人材の活躍

このインパクトは社会的側面においてポジティブインパクトをもたらすと考えられる。従業員にとっての働きやすい環境づくりは、多様な商品開発・菓子づくり、真心のこもった接客など、その能力を十分に発揮することにつながると考えている。特に、従業員の7割を女性が占めることから、育休中の従業員を対象にしたママサロンの開催や育児期間の時短勤務制度など、女性が活躍できる職

場環境の整備に注力している。

この取組みの陣頭指揮を執るのが山本社長であり、内閣府が支援する「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しているほか、イクボス宣言を行うなど女性の活躍を推し進めていくことを対外的にも公表している。また女性管理職は49%と、滋賀県平均の14.7%と比べて高い水準である。こうした取組みは外部からも評価されており、2019年には「女性が輝く先進企業表彰」において、「内閣府特命担当大臣(男女共同参画)表彰」を受賞したほか、20年には「滋賀県女性活躍推進企業認証制度」において最高賞である三つ星企業に認証されている。

政府はSDGs推進本部にて策定したSDGsアクションプラン2020の中でも三つの柱の一つとして「SDGsの担い手としての次世代・女性のエンパワーメント」を掲げ、女性活躍を推進しているほか、第5次男女共同参画基本計画を閣議決定するなど、ジェンダー平等に向けた取組みを加速化させようとしている。このような観点からも同社の取組みは有意義である。

このインパクトはUNEP FIのインパクトレーダーでは「雇用」に該当すると考えられる。またSDGsでは「5.1, 5.5」「8.5, 8.8」に貢献すると考えられる。

■ 多様な人材の活躍への取組み



子育ても仕事もイキイキと。
ママサロンを開催



内閣府「女性が輝く先進企業表彰」を受賞



イクボス宣言

[出所：すべてたねやウェブサイト]

● バリューチェーンにおける環境への配慮

このインパクトは環境的側面においてネガティブインパクトの抑制を企図する。事業活動の各段階においてGHG排出や食品廃棄物の発生、プラスチックごみの発生など環境へのネガティブインパクトの発生が考えられる。

たねやの環境への取組みは、1998年に社内に環境委員会を設置し「たねや環境憲章」を制定したことに始まる。その後、07年には新たにGHG削減・地域の水資源や生物多様性の保全などのテーマを盛り込んだ「たねや環境方針」に改定し、たねや菓子職業訓練校のカリキュラムに環境問題を組み入れるなど、社内外において環境問題への取組みを徹底している。同社の愛知川工場は年間の原油換算におけるエネルギー使用量が1,500klを超える事業所であり、滋賀県が実施する低炭素社会づくり推進条例に基づく事業者報告書制度の対象企業に位置付けられており、特に環境へのネガティブな影響を抑制するよう配慮した事業活動を行っている。

今後、同社はGHG排出量の削減や廃棄物のリサイクルなどへの取組みを盛り込んだ「グリーン

ディール宣言」を新たに策定し、社内外に向けて公表する計画としている。これの実行によりネガティブインパクトの管理・抑制の更なる高度化が期待される。

このインパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーでは、「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」に該当すると考えられる。また SDGs では、「12.3, 12.5」「13.2, 13.3」「14.1」「15.1, 15.2」に影響を与えると考えられる。

■環境配慮への取組み



バームクーヘンminiのトレーを紙に



カフェのプラカップをグラスに



琵琶湖水草の循環利用

[出所：すべてたねやウェブサイト]

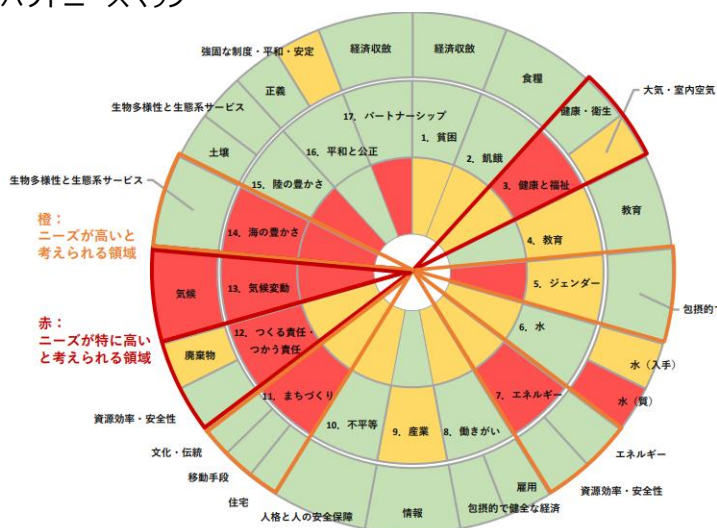
(4) インパクトニーズとの関係性

ロジックモデルに加え、国際目線のツールとの整合性の確認を経て特定したインパクトに関して、その重要性を判断するにあたり、事業活動エリアにおけるインパクトニーズとの関わりを検証する。

①国内におけるインパクトニーズ

下図の同心円の最内層と中間層の色区分は、日本が特に取り組むべき SDGs を赤色、取り組むべきであるが不十分な SDGs を黄色、その他を緑色としているものである。特定したインパクトと関連付けられる SDGs のゴールは「2、3、5、6、8、11、12、13、14、15」であり、すべてのゴールが赤色もしくは黄色のゴールに該当している。したがって同社のインパクトは国内ニーズとの関連性があり、客観的にも重要度が高いものであると考えられる。

■国内のインパクトニーズマップ



[出所：「インパクトファイナンスの基本的考え方」]

②地域におけるインパクトニーズ

ここでは、たねやが地域に根差した企業活動を行っていることを鑑み、特定したインパクトが地域の課題とどのように関連しているのかについて分析した。

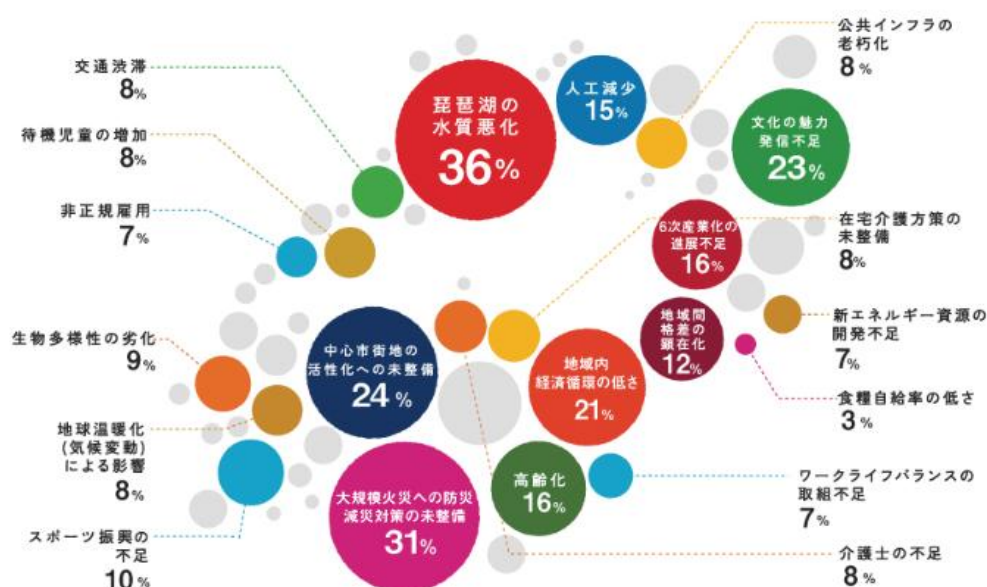
滋賀経済同友会が2016年に公表する『SHIGA 戦略的CSR経営モデル』構築のためのアンケート調査結果によると、会員企業が認識する滋賀で最も緊急を要する社会的課題として「琵琶湖の水質悪化」が36%と最も多く、次いで「大規模火災への防災減災対策の未整備」が31%、「中心市街地の活性化への未整備」が24%、「文化の魅力発信不足」が23%、「地域内経済循環の低さ」が21%となっている。

たねやの取組みは「文化の魅力発信不足」「中心市街地の活性化への未整備」「琵琶湖の水質悪化」「地域内経済循環の低さ」への貢献が考えられる。

滋賀県は環境先進県を標榜し、SDGs 未来都市として持続可能な滋賀の実現に取り組んでいる。国内外の動きと協調し、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指し、県民、事業者等多様な主体と連携して取り組む「しがCO2 ネットゼロ」ムーブメント」キックオフ宣言をしている。琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境を守り、豪雨災害等に強い持続可能な社会を次世代に引き継ぐことを目指している。たねやのバリューチェーンにおける環境配慮に向けた取組みは、本制度の趣旨に沿っていることに加え、先進的に取り組む姿勢は他社への模範にもなっている。

上記のほか、原材料の調達には農業を通じて自然の恵みを楽しむという観点で、自然との共生を図るという根源的な課題があることから、同社のもたらすインパクトは重要といえる。

■「滋賀で最も緊急を要する課題」に関するアンケート調査



[出所：滋賀経済同友会]

(5) 本 PIF に対する当行の意図

たねやの事業が生み出すアウトカムとインパクトニーズを確認した結果を踏まえると、古くから滋賀県に根差した同社の取組みは、当行がしがぎん SDGs 宣言で重点項目として掲げた「地域経済の創造」「地球環境の持続性」「多様な人材の育成」のすべてと方向性が一致していると同時に、当行による本 PIF の意図そのものである。

山本社長は 2019、2020 年度の 2 期に渡り滋賀経済同友会の代表を務め、昨今の地球環境の問題や地域社会・経済の課題への対応を推進した。そして、たねやが本年創業 150 周年を迎えるにあたり、こうした活動などによる現状認識を踏まえ、未来に向けた事業の在り方の見直しに着手している。

同社の価値観である「大切にすきもち」「2030 年に向け、大切にすること」などを再確認する中

で、「健康・安心・安全を最優先」「脱炭素の実現」「フードロス削減と資源の循環」「地球環境への配慮と保護」「地域の方々と守り、伝える」を基軸に新たに取り組む施策について、当行は金融面で支えていくとともに、施策の方向性について対話していく。

3.インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものとするため、特定したポジティブインパクトの創出の可能性、および重大なネガティブインパクトの緩和・管理が適切になされるかを事前に評価する。加えて先に特定した4項目のインパクトに対し、それぞれにKPIを設定する。

●自然と共生するお菓子作り


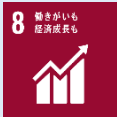


項目	内容
インパクトの種類	<ul style="list-style-type: none"> ・環境的側面において農業生産によるネガティブインパクトの緩和 農法の改良によるポジティブインパクトの増大 ・社会的側面において生産者、製造工場の労働環境などに関するネガティブインパクトを抑制 ・自然との共生を深めたお菓子の提供により社会的側面のポジティブインパクトを増大
インパクト・カテゴリ	<p><環境>水質(正・負)、土壌(正・負)、生物多様性(正・負)、 資源効率・安全性(負)、気候(負)、廃棄物(負)</p> <p><社会>水量(負)、食糧(正)、健康・衛生(正・負)、雇用(正・負)</p>
関連するSDGs	     
内容、対応方針	<p>①原材料調達に関する方針、サプライヤー取引に関する方針の新規策定</p> <p>②①に基づく生産者、製造工場との対話の推進(調査票の利活用)</p> <p>③②の浸透による持続可能な農業の発展</p> <p>④健康と安心、安全を大切にしたお菓子を提供</p>
目標とKPI	<p>目標: サプライチェーンを通じた持続可能な農の促進</p> <p>KPI: 生産者、製造工場との対話数(定性情報として対話の内容も共有)</p>

前述したように原材料調達に関する方針、サプライヤー取引に関する方針を定めている。従来から生産者と対話を実施してきたが、今後は独自に作成した調査票を用いて取引先との対話を明文化し、情報を蓄積していく。原材料に関する取引先を中心に仕入部が年に1回対話を実施、たねやの考えを伝えるとともに、取引先の労働環境や品質面、地球環境、地域社会への貢献に関する取組みについて対話する機会とする。

上記は新たな取組みでもあり、まずはこの取組みが相手に理解され定着する必要があることから、生産者や製造工場との対話数をKPIとして設定した。対話数と合わせて定性情報として対話の内容についても共有することでインパクトの発現状況もモニタリングしていく。

毎年継続的に対話を実施することから、調査票の評点を指標として、取引先の取組み改善などを測定していくことも望ましい。

●地域とつながる商い

項目	内容
インパクトの種類	・地域の経済、社会、環境すべての側面においてポジティブインパクトを増大
インパクト・カテゴリ	<経済> 包括的で健全な経済(正) <社会> 雇用(正・負)、伝統文化(正) <環境> 水質(正)、土壌(正)、生物多様性(正)、気候(負)
関連する SDGs	   
内容、対応方針	・伝統・文化や自然とつながる場の提供 ・地域行事への参加、企画による地域とのつながり ・植林やヨシ刈りへの参加
目標と KPI	目標: ラ コリーナ運営による地域経済の活性化 KPI: ラ コリーナへの来場者数

ラ コリーナは同社のサステナビリティの考えを具現化し、自然との理想的な共生の姿を示す施設である。幅広い世代の地域の人々やお客さまにとって、伝統・文化や自然、地域とのつながりを感じられ、生涯学習の場となることを意図した施設運営を行っている。また、滋賀県の観光入込客統計調査書によると、同施設に訪れた観光客は八幡堀や安土城等、周辺の名所にも立ち寄っていると推察されることから、地域への経済効果・地域活性化の効果があると考えられる。

上記より、ラ コリーナへの来場者数はインパクトを表す直接的な指標ではないが、インパクト創出へのつながりを論理的に説明できる指標と判断し、モニタリングする KPI に設定した。

今後は本 KPI だけでなく、同社が開催するイベントの回数や参加した人数のほか、アンケートの実施等により、参加者の考え方がどのように変化したかなど定性的な情報も収集していくこと、また地域経済への波及効果を定量的に算出していくことも有用と思われる。

●多様な人材の活躍





項目	内容
インパクトの種類	・従業員の働きがいなどのポジティブインパクトを増大
インパクト・カテゴリ	<社会> 雇用(正)
関連する SDGs	 
内容、対応方針	・女性活躍、仕事と子育ての両立支援
目標と KPI	目標: 女性が活躍できる風土の醸成 KPI: 女性の管理職比率

事業における多様な人材の活躍というインパクトを表すものとして、女性が活躍できる風土の醸

成を目標として掲げ、そのKPIとして現在 49%である女性の管理職比率を 50%以上に高め、その水準を維持することを KPI に設定した。

子育て世帯が働きやすい環境が整備されている一方で、介護を理由にした退職者が出てきていることが、同社の新たな課題として挙げられる。地域のサポート体制が少なく、周りに相談相手も少ない介護に関する悩みを持つ従業員に対応するため、介護休暇などの制度を整えるだけでなく、しあわせ推進室を設け、相談窓口体制を作るなどハード・ソフト両面に対応している。今後はこうした施策が従業員のやりがいや働きがい、満足度向上につながっているかどうかを検証する仕組みや指標を設定していくことが望ましい。

●バリューチェーンにおける環境への配慮

項目	内容
インパクトの種類	・製造・販売における環境的側面のネガティブインパクトの抑制
インパクト・カテゴリ	<環境>資源効率・安全性(負)、気候(負)、廃棄物(負)
関連する SDGs	   
内容、対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・国の目標よりも早い脱炭素の実現 ・県内のエネルギー自給の取組みに参加 ・フードロスの削減、資源効率の促進
目標と KPI	目標:2030 年までにスコープ 1, 2 の GHG 排出量の 2013 年度比 50%削減 KPI:GHG 排出量 目標:製造から販売の工程における廃棄物を削減する KPI:食品廃棄物の再生利用率(現状 95.6%)

気候変動問題は原材料にも影響すること、地域だけでなく社会全体の持続性に影響することから、脱炭素社会と循環型経済への取組みを事業の中核的要素として位置づけ、その取組みを一層強化していく考えである。

脱炭素への取組みについては、2030 年までにスコープ 1.2 の GHG 排出量を 2013 年度比 50%削減するという目標を設定している。そのために製造工程における運用改善のほか、再生エネルギーの使用比率を高めること、バイオディーゼル燃料の活用などを検討している。

廃棄物については、製造・販売の各工程において避けられないことから、まず従業員の意識を高めるべく、人事評価基準を売上重視からロス削減重視へと転換し、風土改革を行っている。また、同社から発生する有機汚泥は再生処理業者に委託し堆肥化し、たねや農藝にて利用するなど、グループ内で循環させている。他にも、動植物性残渣については、再生処理業者を通じて飼料として再資源化している。このように廃棄物の排出抑制と再資源化によって、食品廃棄物の再生利用率を 95%以上の水準に維持することを目指す。

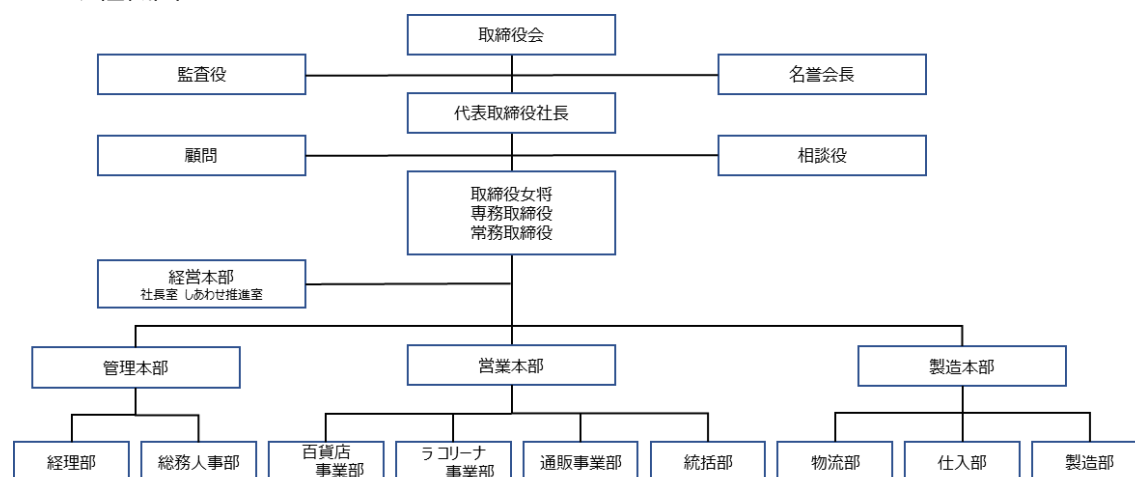
4. モニタリング

(1) たねやにおけるインパクトの管理体制と開示方針

取締役会直轄の経営本部が社会的側面から事業を考察し、SDGs 活動推進のための諸施策を立案・実施している。経営本部が中心となって、グループ会社の担当者と構成されている会議を隔月で開催し、情報共有と取組みの進捗を確認する。

この会議で設定する目標・KPI はウェブサイトなどで SDGs 活動(サステナビリティ)に関連する定性的、定量的な情報として開示していく方針である。PIFで設定した目標やKPIは今後、毎年7月ごろにウェブサイトに公表または滋賀銀行に報告する予定である。

■ たねや組織図



[出所：たねや]

(2) 当行によるモニタリング

当行は株式会社しがぎん経済文化センターと連携のもと、PIF の契約期間中、同社の事業活動から意図したポジティブインパクトが継続して生じていること、重大なネガティブインパクトが適切に緩和・管理されていることを継続的にモニタリングする。

モニタリングは少なくとも年に 1 回行うことを契約事項に組み込んでおり、公開情報での確認や日々の対話によって達成状況をフォローアップする体制を構築している。また、このフォローアップは単なる進捗の確認ではなく、必要に応じて、インパクト実現に向けた対応策等に関するエンゲージメントを行うものである。

以上

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、滋賀銀行が現時点で入手可能な公開情報、たねやから提供された情報やたねやへのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 滋賀銀行が本評価に際して用いた情報は、滋賀銀行がその裁量により信頼できると判断したものではありませんが、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は滋賀銀行が保有しています。本評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止されています。